

「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで」

展覧会関連プログラムを続々開催中

7月5日に国立新美術館と森美術館で開催した「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで」(主催：国立新美術館、森美術館、国際交流基金アジアセンター)に合わせ、会期中さまざまな関連プログラムを実施いたします。その中から、国際交流基金アジアセンターが企画する、東南アジアの文化や歴史についての知識を広げるためのプログラムを下記にご案内いたします。

記

1、レクチャーシリーズ「寺子屋サンシャワー」(3~4頁参照)

日本と東南アジアを股にかけて活躍する専門家に、歴史やファッション、食など8つのテーマから東南アジアの「今」を語ってまいります。「展覧会をきっかけに東南アジアについてもっと知りたくなった」という人はもちろん、もともと東南アジアが好きな人も、楽しみながら気軽に受講できます。*日本語のみ

- 【日時】 初回は2017年7月22日(土) 14:00~、以降全8回
 【会場】 国立新美術館 3階研修室A・B
 【定員】 各回80名(要予約、先着順。展覧会ウェブサイトの「関連プログラム」ページ[sunshower2017.jp/programs.html]から当該レクチャーをお申し込みいただけます)



2、スクリーニング「FUN! FUN! ASIAN CINEMA@サンシャワー」(5~8頁参照)

東南アジア地域の多様性が感じられる映画を特集上映します。それぞれの国が抱える文化や社会状況が反映された映画一本一本からは、その国の人々が何を見、聞き、食べ、どのように人を愛するかがビビッドに伝わってきます。

- 【会期】 2017年8月10日(木)~13日(日)
 【会場】 国立新美術館 3階講堂
 【定員】 各回260名(予約不要、各回入替制、当日各回先着順)



3、「ワーキングタイトル 国際交流基金アジアセンター上映企画・実践ワークショップ」参加者による特別上映会(8頁参照)

日本及び東南アジア地域において映画を広く一般に伝える若手上映専門家の育成とネットワーク構築を狙うプロジェクトの第1回。タイ、インドネシア、フィリピン、日本から若手実力派映画プログラマー/キュレーターが参加、「サンシャワー展」のテーマに沿った企画を立て、上映会を実施します。

- 【会期】 2017年9月3日(日)・10日(日)
 【会場】 国立新美術館 3階講堂
 【定員】 各回260名(予約不要、各回入替制、当日各回先着順)

●1、2、3共通事項

- 【参加費】 無料(ただし、「サンシャワー展」の国立新美術館単館券もしくは二館共通券[半券可]が必要)
 【一般お問い合わせ】 電話: 03-5777-8600(ハローダイヤル)
 【主催】 国際交流基金アジアセンター、国立新美術館

以上

主催者・本関連プログラムに関するお問い合わせ: 国際交流基金アジアセンター文化事業第一チーム
 (担当: 根本(武)、武田) Tel: 03-5369-6140

展覧会・取材に関するお問い合わせ: 「サンシャワー: 東南アジアの現代美術展」広報事務局(共同PR内)
 (担当: 三井・谷川) Tel: 03-3575-9823 / Fax: 03-3574-0316 / E-mail: sunshower2017pr@kyodo-pr.co.jp

当基金に関するお問い合わせ: 国際交流基金コミュニケーションセンター(担当: 熊倉、二村、常盤)
 Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで

国立新美術館と森美術館、国際交流基金アジアセンターは、2017年7月5日（水）から10月23日（月）まで、「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで」を開催しています。ASEAN（東南アジア諸国連合）設立50周年にあたる2017年、東南アジアの現代美術を紹介する、史上最大規模の意欲的な展覧会です。同じ六本木エリアにある国立新美術館、森美術館両館長が発案し、国際交流基金の賛同により実現したもので、三者が総力を挙げ、14名のキュレトリアル・チームによる2年半にわたる現地調査を経てASEAN10カ国より86組のアーティストを選定、計約190点の作品を2館の会場に展示する、初の共同企画展となります。

本展は、時代の潮流と変動を背景とした東南アジアにおける1980年代以降の現代アート的发展を9つの視点から掘り下げ、そのダイナミズムと多様性を紹介しています。



リー・ウェン《奇妙な果実》 2003年

- 【会期】 2017年7月5日（水）～10月23日（月）
- 【会場】 国立新美術館 企画展示室2E、森美術館
- 【主催】 国立新美術館、森美術館、国際交流基金アジアセンター
- 【一般問い合わせ】 ハローダイヤル 03-5777-8600
- 【展覧会ホームページ】 sunshower2017.jp

国立新美術館

- 【美術館ホームページ】 <http://www.nact.jp/>
- 【住所】 〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
- 【開館時間】 10:00～18:00
（毎週金曜日・土曜日は21:00まで）
- ※「六本木アートナイト2017」開催に伴い、9/30（土）10/1（日）両日ともに22:00まで
- ※入場は閉館の30分前まで
- 【休館日】 毎週火曜日

森美術館

- 【美術館ホームページ】 www.mori.art.museum
- 【住所】 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1
六本木ヒルズ森タワー53階
- 【開館時間】 10:00～22:00（毎週火曜日は17:00まで）
- ※「六本木アートナイト2017」開催に伴い、9/30（土）は翌朝6:00まで
- ※入場は閉館時間の30分前まで
- 【休館日】 会期中無休

主催者・本関連プログラムに関するお問い合わせ：国際交流基金アジアセンター文化事業第一チーム
（担当：根本^(武)、武田） Tel: 03-5369-6140

展覧会・取材に関するお問い合わせ：「サンシャワー：東南アジアの現代美術展」広報事務局（共同PR内）

（担当：三井・谷川） Tel: 03-3575-9823 / Fax: 03-3574-0316 / E-mail: sunshower2017pr@kyodo-pr.co.jp

当基金に関するお問い合わせ：国際交流基金コミュニケーションセンター（担当：熊倉、二村、常盤）

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

1、レクチャーシリーズ「寺子屋サンシャワー」

第1回 歴史・文化・政治 | 「東南アジア」を俯瞰する

東南アジアを東南アジアたらしめているのは、どのようなものごとなのでしょうか。風土、人種、言語、歴史などにおけるこの地域の豊かな多様性と、それでもなお一体の存在であろうとする「東南アジア」のあり方について、特に政治史の観点から語ります。

【日時】 2017年7月22日(土) 14:00~16:30 (開場 13:30)

【講師】 岩崎育夫 (拓殖大学国際学部教授)



1949年長野県生まれ。1972年立教大学文学部卒業後、1974年アジア経済研究所入所。アジア経済研究所地域研究第一部主任調査研究員を経て、拓殖大学国際開発研究所教授に就任。現在、拓殖大学国際学部教授。

小川 忠 (跡見学園女子大学文学部教授)



1982年早稲田大学教育学部英語英文学科修了。2012年早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修了、博士(学術)取得。1982年から2017年まで35年間、国際交流基金に勤務。ニューデリー事務所長、東南アジア総局長兼ジャカルタ日本文化センター所長などを歴任。2017年4月から跡見学園女子大学文学部教授。

第2回 食 | たべれば見えるポードレス東南アジア

アジア各地には、同じ名前の料理やよく似た料理があります。微妙に異なるスパイスやハーブ、調味料の使い方、好まれる食材や料理名の違いなどを、地理的にも民族的にも関係が深いタイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの4カ国で比較、クイズやワークショップも交えながら楽しくアジアの食文化の奥深さに迫ります。

【日時】 2017年7月29日(土) 14:00~17:00 (開場 13:30)

【講師】 アジアごはんズ



現地に在住経験のある料理研究家、フードライター、スパイス専門家などによる、ごはん比較探Qユニット。アジアの中でも地理的・民族的・気候的に近い四カ国(タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア)の食べ比べイベントを開催しながら、地続きの食文化のつながりや歴史的な背景などを探究している。メンバーは、写真左から伊能すみ子(アジアフードディレクター)、浅野曜子(インドネシア料理研究家)、高島系子(ライター)、下関崇子(タイ・カルチャー料理家、ムエタイインストラクター)、古川音(「マレーシアごはんの会」主催者)の5人。<http://asiagohanz.com/>

第3回 ジェンダー・LGBTQ | 映像を通して語る東南アジアのジェンダー・LGBTQ

【日時】 2017年8月19日(土) 14:00~16:30 (開場 13:30) *終了時刻は予定

【講師】 松下由美 (映画プレゼンター/キュレーター/プロデューサー)



『99分、世界美味めぐり』東京撮影ライン・プロデューサーなどメディアと映画の製作・コンサルティング・司会・通訳・講師・執筆やキュレーションを行う。2009・2012年には Sintok シンガポール映画祭を東京で主催。現在は映画を通して若い世代と社会の課題をつなぐ活動、多言語教育・多様性社会といったテーマに取り組んでいる。

主催者・本関連プログラムに関するお問い合わせ：国際交流基金アジアセンター文化事業第一チーム

(担当：根本(武)、武田) Tel: 03-5369-6140

展覧会・取材に関するお問い合わせ：「サンシャワー：東南アジアの現代美術展」広報事務局 (共同 PR 内)

(担当：三井・谷川) Tel: 03-3575-9823 / Fax: 03-3574-0316 / E-mail: sunshower2017pr@kyodo-pr.co.jp

当基金に関するお問い合わせ：国際交流基金コミュニケーションセンター (担当：熊倉、二村、常盤)

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

第4回 若者 | 東南アジアの若者は今——島しょ部を中心に

【日時】 2017年9月1日(金) 18:30~20:30 (開場 18:00)

【講師】 野中 葉 (慶應義塾大学総合政策学部専任講師)



専門は地域研究(インドネシア)。主な関心は、インドネシアのムスリムファッション、イスラームにおける書籍や映画など、同地域におけるイスラームの受容と広がり。2005年慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程修了、2011年同後期博士課程修了。博士(政策・メディア)。

第5回 建築 | 東南アジアの近現代建築

【日時】 2017年9月8日(金) 18:30~20:30 (開場 18:00)

【講師】 岩元真明 (建築家、九州大学大学院芸術工学研究院助教、ICADA 共同代表)



1982年生まれ。2008年東京大学大学院修士課程修了。一級建築士。東南アジアの近現代建築の研究と実践を行っている。2006年シュトゥットガルト大学ILEK研究員。難波和彦+界工作舎スタッフ、ヴォ・チョン・ギア・アーキテクト(VTN Architects) パートナーを経て、2015年よりICADA 共同代表。2014年AR住宅賞1等、2016年ARCASIA(アジア建築家評議会) サステナブル建築部門金賞など建築作品の受賞多数。

第6回 ファッション | 東南アジアのファッション最前線

【日時】 2017年9月22日(金) 18:00~20:30 (開場 18:00)

【講師】 信田阿芸子 (日本ファッション・ウィーク推進機構 国際ディレクター)



1970年生まれ。大阪外国語大学卒業後、伊藤忠商事株式会社に入社。多くの欧州ブランドを担当した後、伊藤忠ファッションシステム株式会社に出向し、マーケティングコンサルタントとして活動。2008年、経済産業省より、日本ファッション推進機構 国際ディレクターに任命される。世界のファッションビジネスで影響力のある500名として「BoF 500」に2014年・2015年選出。



横堀良男 (国際アジアファッションビジネスコンサルタント、サイド代表取締役)

日本ファッション企業の海外アジア進出コンサルタント。独立行政法人 中小企業基盤整備機構の国際化支援アドバイザーを務めており、シンガポール・インドネシア・フィリピン・タイ・香港の行政機関のファッションイベントの企画・運営も行う。株式会社サイド代表取締役。文化服装学院・文化学園大学非常勤講師。

第7回 宗教 | 岐路に立つ東南アジアのイスラーム

【日時】 2017年10月6日(金) 18:30~20:30 (開場 18:00)

【講師】 小川 忠 (跡見学園女子大学文学部教授) *プロフィールは第1回参照

第8回 都市 | 屋台・市場から読み解く東南アジアの都市

【日時】 2017年10月20日(金) 18:30~20:30 (開場 18:00)

【講師】 中村 航 (建築家、Mosaic Design 代表、明治大学 IAUD 教育補助講師)



1978年東京生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科建築学専攻修了、同大学博士後期課程・理工研助手・嘱託研究員を経て、2010年~2016年まで東京大学大学院工学系研究科建築学専攻助教。大学院時代からアジアを対象に現代都市のメカニズムの研究を続け、東南アジアのストリートの屋台研究で博士号取得。2011年に自身の設計事務所 Mosaic Design を設立し、建築・インテリアのデザインと、都市の研究・計画を進めている。

主催者・本関連プログラムに関するお問い合わせ：国際交流基金アジアセンター文化事業第一チーム

(担当：根本(武)、武田) Tel: 03-5369-6140

展覧会・取材に関するお問い合わせ：「サンシャワー：東南アジアの現代美術展」広報事務局(共同 PR 内)

(担当：三井・谷川) Tel: 03-3575-9823 / Fax: 03-3574-0316 / E-mail: sunshower2017pr@kyodo-pr.co.jp

当基金に関するお問い合わせ：国際交流基金コミュニケーションセンター(担当：熊倉、二村、常盤)

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

2、スクリーニング「FUN! FUN! ASIAN CINEMA @サンシャワー」

【8月10日（木）】 ドキュメンタリーの日

上映時間	12:30～（開場 12:10）	14:40～（開場 14:20）	16:30～（開場 16:10）
作品タイトル	Visual Documentary Project 2015 セレクション（計97分）	Visual Documentary Project 2016 セレクション（計77分）	Tokyo Docs「Colors of Asia」 （計54分）

A) 「Visual Documentary Project」は毎年異なるテーマで、日本・東南アジアの若手映像作家を対象に短編ドキュメンタリー映像作品を募集・上映。映像作品を通して東南アジアの現状を捉え、諸問題の解決へとつなげる試みを行っています。



「Visual Documentary Project」2015 セレクション

（テーマ「越境する東南アジア」）

『2人のマイケル』（タイ | 29分）、『ジウおじいちゃんへ捧ぐ』（ベトナム | 23分）、『夢さ』（マレーシア | 9分）、『私の足』（ミャンマー | 16分）、『我が政治人生』（ミャンマー | 20分）

協力：京都大学東南アジア地域研究研究所



「Visual Documentary Project」2016 セレクション

（テーマ「東南アジア：日常生活のポリティクス」）

『森に生きる女たち』（マレーシア | 15分）、『60日』（ミャンマー | 31分）、『鉞脈』（ミャンマー | 31分）

協力：京都大学東南アジア地域研究研究所

B) ドキュメンタリーの国際共同製作を支援するTokyo Docsで誕生したプロジェクト「Colors of Asia」では、日本の製作会社とアジアの若い映像制作者が連携して、共にドキュメンタリー番組を制作。今回は「アジアの今を生きる女性たち」をテーマにした2作品を紹介します。



日曜日のシンデレラ

（2015年 | 日本、フィリピン | 29分）

香港で働く19万人のフィリピン人家政婦。日曜ごとに集まり、家族への思いや仕事の悩みを語りあう彼女たちの楽しみの一つは、毎年6月にフィリピン独立記念日を祝い開催される「家政婦・美人コンテスト」だった。



ラグビーと女のわたし

（2016年 | 日本、ラオス | 25分）

両親の仕事を手伝うため14歳で学校を辞めたラオ。だが20歳の時にラグビーに出会い、その人生は一変する。天性の才能を発揮したラオは、国内唯一の女性チームにスカウトされ、ラオス代表として国際試合への出場も果たす。同胞たちの意識に変化をもたらそうと奔走するラオを通し、少数民族の女たちの今を見つめる。

主催者・本関連プログラムに関するお問い合わせ：国際交流基金アジアセンター文化事業第一チーム

（担当：根本^(武)、武田） Tel: 03-5369-6140

展覧会・取材に関するお問い合わせ：「サンシャワー：東南アジアの現代美術展」広報事務局（共同 PR 内）

（担当：三井・谷川） Tel: 03-3575-9823 / Fax: 03-3574-0316 / E-mail: sunshower2017pr@kyodo-pr.co.jp

当基金に関するお問い合わせ：国際交流基金コミュニケーションセンター（担当：熊倉、二村、常盤）

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

【8月11日（金・祝）】 アクションの日

上映時間	13:00～（開場 12:40）	14:50～（開場 14:30）	17:30～（開場 17:10）
作品タイトル	超人X. (81分)	レボリューション・ティガ (125分)	ドラゴン・ガール (110分)

東南アジア各国でブーム到来中のアクション映画。各国の伝統武術を取り入れたものや、各国の社会や文化を垣間見ることができます。今回はベトナム、インドネシア、ブルネイの3作品を上映します。



『超人X.』(2014年 | ベトナム | 81分)

監督：グエン・クアン・ユン

ゴキブリも怖がるようなひ弱な青年・スン。だが、ある日スーパーパワーを手に入れ、仮面を被った正義のヒーロー“超人X”となり大活躍。瞬く間に人気者になった彼は美人でわがままなキキから猛烈なアタックを受けるが、彼には女性を受け入れられない理由があった。そんななか、超人Xの強敵となる強盗団が現れ、スンの中に新たな感情が芽生える。

© 2014 Galaxy ME, Entertainment & Hkfilm all rights reserved



『レボリューション・ティガ』(2015年 | インドネシア | 125分)

監督：アング・ウンバラ *一部 暴力描写が含まれます

2036年、インドネシア。対テロ特殊部隊のエースであるアリフ、真実を追求するジャーナリストのラム、神に奉仕し静かに平和を祈念するミン。かつて同じ道場で、ともに格闘技・シラットを学んだ3人の男たちは、裏社会でテロリストやマフィアが暗躍する今、それぞれの立場で対峙することとなる。

MVP PICTURES Copyright © 2015 All rights reserved.



『ドラゴン・ガール』(2014年 | ブルネイ | 110分)

監督：シティ・カマルディン

厳格な父に男手ひとつで育てられた自由奔放な女子高生ヤスミン。初恋の相手がシラット国際大会で優勝し、町に帰ってくるが、ライブレで私立のシラット部の女子チャンピオンであるデヴィが彼に急接近。何とかアディを振り向かせたいヤスミンは、公立校の弱小シラット部に入部し、仲間たちと大会優勝を目指す！

© ORIGIN FILMS SDN. BHD. MMXIV

【8月12日（土）】 オムニバスの日

上映時間	13:00～（開場 12:40）	15:30～（開場 15:10）	17:30～（開場 17:10）
作品タイトル	セブンレターズ (116分)	Art Through Our Eyes (30分) *上映後トークを予定	アジア三面鏡 2016： リフレクションズ (118分)

独立したいくつかの物語を一つの映画作品として構成するオムニバス映画。今回はシンガポールの監督7人がラブレターをテーマに製作した『セブンレターズ』、東南アジアの画家が描いた作品からインスピレーションを得た5人の監督による『Art Through Our Eyes』、「アジアで共に生きる」というテーマでフィリピン、日本、カンボジアの気鋭監督がメガホンをとった『アジア三面鏡2016：リフレクションズ』を上映します。

主催者・本関連プログラムに関するお問い合わせ： 国際交流基金アジアセンター文化事業第一チーム

（担当：根本^(武)、武田） Tel: 03-5369-6140

展覧会・取材に関するお問い合わせ： 「サンシャワー：東南アジアの現代美術展」広報事務局（共同 PR 内）

（担当：三井・谷川） Tel: 03-3575-9823 / Fax: 03-3574-0316 / E-mail: sunshower2017pr@kyodo-pr.co.jp

当基金に関するお問い合わせ： 国際交流基金コミュニケーションセンター（担当：熊倉、二村、常盤）

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp



『セブンレターズ』(2015年 | シンガポール、マレーシア | 116分)

監督：エリック・クー、ブー・ジュンフェン、ジャック・ネオ、ケルビン・トン
グ、K.ラジャゴパル、タン・ピンピン、ロイストン・タン

建国 50 周年を記念し、シンガポールを代表する監督 7 人が制作したショートフィルムのおムニバス映画。それぞれの監督が自身と母国のつながりを描いた、七人七様の“ラブレター”。失恋やアイデンティティ、世代間の家族の絆、希薄になる隣人との関係、さらに伝統芸能を通して、シンガポールに生きる人々の物語が展開する。

字幕協力：ショートショートフィルムフェスティバル & アジア



『Art Through Our Eyes』(2016年 | シンガポール | 30分)

*日本初公開。上映後トークを予定

監督：アピチャップン・ウィーラセタクン、ブリランテ・メンドーサ、エリック・クー、ホー・ユーハン、ジョコ・アンワル

シンガポール国立美術館の企画として、東南アジアの監督 5 人が同ギャラリーに收藏される 19 世紀、20 世紀の東南アジア美術からそれぞれ受けたインスピレーションを短編映像に収めたオムニバス映画。「サンシャワー展」でも注目のタイのアピチャップン、フィリピンのメンドーサらの独特の世界観が並ぶ贅沢な作品。

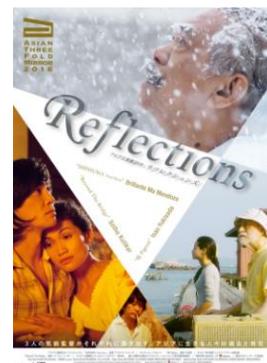
『アジア三面鏡 2016：リフレクションズ』

(2016年 | 日本 | 118分)

監督：ブリランテ・メンドーサ、行定勲、ソト・クォーリーカー

アジアの気鋭監督 3 人が、「アジアで共に生きる」というテーマのもと、それぞれの時代と文化を反響させ、新しい光を生み出すシリーズ第 1 弾。様々な国のスタッフ・キャストが結集し、日本とカンボジア、フィリピン、マレーシアの各国間を行きかう人々の生きる姿を映し出す。

© 2016 The Japan Foundation, All Rights Reserved.



【8月13日(日)】 愛&友情の日

上映時間	12:00～ (開場 11:40)	13:50～ (開場 13:30)	15:50～ (開場 15:30)
作品タイトル	SHIFT～恋よりも強いミカタ (81分)	グッバイ・ボーイズ (88分)	イロイロ めくもりの記憶 (99分)

人を愛するとは？ 人に思いを寄せることとは？ 愛と友情をテーマにした映画を上映します。

『SHIFT～恋よりも強いミカタ』(2013年 | フィリピン | 81分)



監督：シージ・レデスマ

エステラの夢はシンガーソングライターになること。そんな理想とは裏腹に、コールセンターで夜間勤務する毎日を送っている。面倒見のよい先輩トレヴァーがお目付け役に任命され、ふたりはすぐに意気投合。優しくサポートしてくれるトレヴァーに、エステラはやがて友達以上の淡い恋心を抱き始めるのだが、彼との間には超えられない壁があり……。

配給：ピクチャーズデプト ©2013 Cinema One Originals

主催者・本関連プログラムに関するお問い合わせ： 国際交流基金アジアセンター文化事業第一チーム

(担当：根本(武)、武田) Tel: 03-5369-6140

展覧会・取材に関するお問い合わせ： 「サンシャワー：東南アジアの現代美術展」広報事務局 (共同 PR 内)

(担当：三井・谷川) Tel: 03-3575-9823 / Fax: 03-3574-0316 / E-mail: sunshower2017pr@kyodo-pr.co.jp

当基金に関するお問い合わせ： 国際交流基金コミュニケーションセンター (担当：熊倉、二村、常盤)

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

『グッバイ・ボーイズ』(2005年 | マレーシア | 88分)

監督：バーナード・チョーリー

ボーイスカウトの課題で100キロ徒歩に挑戦する17歳の少年たちを描く青春群像劇。初恋、友情、裏切り……さまざまな困難を乗り越えて大人へと成長していく。



『イロイロ めくもりの記憶』(2013年 | シンガポール | 99分)

監督：アンソニー・チェン

多忙な共働き夫婦の一人っ子ジャーラーは、問題を起こしてばかり。手を焼いた母親の決断で、フィリピン人メイドのテレサが住み込みでやって来る。突然の部外者に心を開かないジャーラーだが、息子への想いを抑えて必死で働くテレサの姿に同じ孤独を感じ、心を開いていく。第66回カンヌ映画祭カメラドール(最優秀新人監督賞)受賞。

© 2013 SINGAPORE FILM COMMISSION, NP ENTERPRISE (S) PTE LTD, FISHEYEPICTURES PTE LTD



3、「ワーキングタイトル 国際交流基金アジアセンター上映企画・実践ワークショップ」参加者による特別上映会

映画制作者を育成するプログラムは国内外問わず存在し、環境は比較的整っている一方、製作された映画を上映する専門家を育成する体制については、未だ整っていないとはいえません。「ワーキングタイトル 国際交流基金アジアセンター上映企画・実践ワークショップ」は、日本及び東南アジア地域において映画を広く一般に伝える若手上映専門家を育成し、共同作業を通じてネットワークを拡大しようとするプロジェクトです。

第1回となる本年度は、タイ、インドネシア、フィリピン、日本からさまざまなバックグラウンドを持つ若手実力派映画プログラマー／キュレーターが参加。6名の参加者が2グループに分かれ、グループごとに国籍の異なる者同士と一緒に「サンシャワー展」のテーマに沿った上映プログラムを作成します。9月3日(日)、9月10日(日)の2日間の特別上映では、一味違う視点から「サンシャワー展」のテーマに切り込む作品群を上映します。また、上映作品に関するトークも予定しています。

9月3日担当プログラマー (写真上)

Putthapong Cheamrattonyu (タイ/タイ・フィルムアーカイブ フィルム・プログラマー)

Jay Mananday Rosas (フィリピン/パサリダハイ 共同創設者・プログラマー)

高崎郁子 (日本/アテネ・フランセ文化センター 映画プログラム担当)

9月10日担当プログラマー (写真下)

Pathompong Manakitsomboon (タイ/インディペンデント・キュレーター)

Sugar Nadia Azier (インドネシア/パブリックツール プログラム・マネージャー)

杉原永純 (日本/山口情報芸術センター (YCAM) 映画キュレーター)



主催者・本関連プログラムに関するお問い合わせ：国際交流基金アジアセンター文化事業第一チーム

(担当：根本(武)、武田) Tel: 03-5369-6140

展覧会・取材に関するお問い合わせ：「サンシャワー：東南アジアの現代美術展」広報事務局(共同PR内)

(担当：三井・谷川) Tel: 03-3575-9823 / Fax: 03-3574-0316 / E-mail: sunshower2017pr@kyodo-pr.co.jp

当基金に関するお問い合わせ：国際交流基金コミュニケーションセンター(担当：熊倉、二村、常盤)

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp